

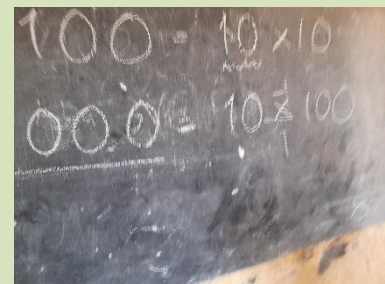
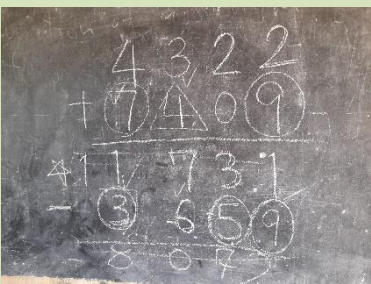
# ガーナでそろばんプロジェクト 115号(2024年 5月30日)

★★ どの子ども計算が分かるようになる授業作りを目指して★★

2か月半ぶりの「CLOUDY SCHOOL」でそろばんの授業に行きました。2回目の授業で中学3年生から4年生までの生徒の合同授業です。初めてそろばんの授業を行なった2か月半前、学年の異なった生徒にそろばんの指導を行なう難しさを感じ、その難しさをどう改善するか試行錯誤の授業2回目となったわけです。そろばん式計算で重要な「make10」make5の理解は4年生と中学3年生では差があるなか、それをどのように教師用そろばんで指導していくか、そしていつも心の奥底で持ち続けている「どの子ども計算がわかるようになる授業」を年齢も体格体力も違う子どもに教えていくか？今回も頭をフル回転させての2時間となりました。休み時間から着席して待つ生徒から英語の「abacus」ではなく「soroban」と聞こえてきたことがとても嬉しく、CLOUDYの現地理事、優美子さんより「子どもたちがとしこさんの授業を楽しみに待っています。」と朝メッセージを貰っていたこともあり、授業開始前から感極まっていたいました。休み時間明けの授業、机に顔を伏せて寝始めてしまった体の小さな子どもが数人。仕方ありません。アフィフェの村の子どももそうであるように、子どもには子どもが行なう家事があります。朝早くからしていたのでしょうか。行き渡る私の声も寝落ちしやすい声に聞こえたのでしょうか。しかし、開始直後は寝ていた子どももしばらくするとすっきりした顔で参加していました。今回、試行錯誤しながら取り組んだのが、計算問題を作るのに、4・5・6年生中心に好きな数を聞きその数を問題に入れました。全体に聞いたのが「何の位から始める？」と全員参加型になるようにし、また前に出て来て実際にそろばんで計算するのは中学生にやっても面白い「たし算にする」「引き算にする」「優しい問題にする」「難しい問題にする」「なにチャレンジする気持ちを引き出せるようにもしました。難しい問題は、繰り上がる（make10）時こそその数を五

珠（make5）から貰うのでそのお釣りを置いてから繰り上がる事を何回か繰り返しやり方を説明しました。授業の終わりに、「小学生クラブ対象に」「100はゼロが何個？」「1000はゼロが何個？」「4580は1000が何個？」「など出題すると最初こそ間違えてしまったけれど、理解してくると自信を持って手を挙げる子どもがいました。分からなかったことが分かるようになる嬉しい。出来なかった事が出来るようになる嬉しい。これはまさに、私がそろばん指導を始めようと思ったきっかけ「100がわかる喜び」なのです。試行錯誤しながらのそろばん授業はこれからも続きます。

報告 TOSHIKO



子どもの学びのサポートに心より感謝いたします。

協賛



トモエそろばん様